

## 72 人造繊維の静電気について

東京歯科大生理 伊藤秀三郎  
武田 安子

1 被服着用は社会的立場と生物学的立場からである。斯くして之等は本能的な羞恥や気候調節を主眼とすることから出発し、文化の向上に伴い無論実用性も考慮されるがいつの間にか鑑賞を主体とするものまでにも発展して来ている。被服類の持味を遺憾無く發揮させるには下着に対する注意も必要である。然るに下着は被服美

の土台となると同時に又衛生的意義も持つのである。最近フランスではロービル、イタリーではモービルと称する合成繊維の下着が作られ薬局で販売され、これを着用すると神経痛が治るといのである。日本に於いてもテビロン製の健康下着なるものが出て医療効果は静電気であると云われているので、著者等は市販されている人造繊維各種の静電気を測定し生理学的に考究せんとする予備研究を企てた。

2 小林理研製作所製電気場測定器により各種繊維織物等の摩擦回数を変え其直後夫々の静電気測定を行った。

3 (1) 摩擦回数0の場合には塩化ビニール繊維を除いた他の繊維は正電気を帯び摩擦回数が増加するに従い帯電気の性質が逆転するものも出現した。

(2) 製品たるナイロン製の下着が正の帯電を示したのに対し塩化ビニール製たるテビロン製のものは、いつも負の帯電をした。